

北海道男女平等参画 チャレンジ賞

平成20年度

▼観光について講演する坂田さん



▼子どもたちと枝打ち作業



▲小島の村子ども館で子どもたちとあやとり

ごあいさつ



北海道知事
高橋 はるみ

平成20年度の北海道男女平等参画チャレンジ賞を受賞された皆様、誠にありがとうございます。道内各地

で、それぞれの個性と能力を活かして活躍されている方々の活動を称えとともに、その活動を広く紹介し、男女平等参画社会実現への気運を高めることを目指して創設したこの賞も、今年で5年目を迎えました。今年は、『日本一の通過型観光地』という新たな観光戦略、「女性の視点を活かした森との共存」、そして「地域一丸となった安心した子どもの居場所づくり」という素晴らしいチャレンジに出会うことができ、とても嬉しく、そして、心強く思います。今後も、皆様のようなチャレンジが次々と生まれ、その輪がさらに広がっていくことを期待しています。受賞された皆様におかれましては、ますますご活躍され、その輝きを一層増していけますことを、心からお祈りしています。

《北海道男女平等参画チャレンジ賞とは》

職場、地域、家庭その他の社会のあらゆる分野で、それぞれの個性と能力を活かしてチャレンジしている方々や、そのような活動を支援している方々を知事が表彰する賞で平成16年度から実施しています。受賞された方々の活動を紹介することにより、チャレンジの具体的なイメージを道民の皆様にお伝えし、男女平等参画の視点から新たにチャレンジしていく人々の輪を広げていくことを目的としています。

なお、平成18年度から自薦・他薦を問わず候補者を募集しています。

賞の種類は次のとおりです。

「輝く女性のチャレンジ賞」、「輝く男性のチャレンジ賞」（個人）

「輝く北のチャレンジ賞」、「輝く北のチャレンジ支援賞」（団体・グループ）

受賞された皆様へ

北海道男女平等参画チャレンジ賞選考委員会

委員長 北海道武蔵女子短期大学准教授 梶井 祥子

受賞された皆様に心よりお祝いを申し上げます。

審査の過程のなかで、あらためて教えて頂いたことがあります。それは、私たちの住む北海道には「活用できる資源がまだまだたくさん眠っている」ということです。目を凝らして、身近な資源をもう一度見つめなおしてみたいと思いました。

置戸町の坂田秀明さんは、見過ごされていた地域の資源に独創的な工夫を加えることで、「通過型観光」というユニークなモデルを発展させています。レディース100年の森林業グループは、見捨てられていた人工林資源に着目し、それを環境資源や次世代への教育資源として再生させていくプロセスが見事です。札幌市藤の沢小学校保護者と教師の会は、地域の人間関係資本を活用しながら、多様な意見をまとめてこられた活動が評価されました。

受賞された活動は、それぞれの分野で私たちに力を与えてくれるものです。若い世代に引き継がれ発展することを心より願っております。

【輝く男性のチャレンジ賞】

さかた ひであき
坂田 秀明さん

（置戸町、置戸町観光協会事務局長）

坂田さんは、美瑛町出身で、北海タイムス、西武百貨店、全日空、マイカル、オホーツク・ガリンコタワー常務を経て、2007年4月、公募で置戸町観光協会事務局長に就任しました。

勤務した各社において旅行部門を担当した経験を活かし、自ら観光客誘致のため全国の旅行会社に営業に出向いています。

また、新聞社勤務の経験から、マスコミの影響力、活用が重要であるという認識のもと、連続的にメディアに情報を発信し、置戸には常に新しい何かがあるというイメージを醸成し、経済

効果はもとより、置戸の認知度アップに成果を上げています。

置戸には観光の核となる宿泊・観光施設がありませんが、オケクラフトセンター（町運営の木エクラフト館）へのツアーバス誘致からスタートし、昼食、冬のそり遊び、雪かき体験などのメニューを増やしていきました。宿泊施設がなく、滞在型観光地になりえないというマイナスポイントを「日本一の通過型観光地」として売り出すことでセールスポイントに逆転させました。

また、海外営業を行うにあたり、英語・中国語に堪能な女性観光アドバイザーを登用。女性の活躍が重要！をモットーとしています。

限られた資源を活用した観光戦略で、地域の活性化につなげたことは、同じく観光で地域振興を目指す他市町村を鼓舞するモデルであると言えます。



観光について講演

【輝く北のチャレンジ賞】

レディース100年の森 林業グループ

(南富良野町、代表 ^{たかのほしあつこ} 鷹嘴 充子)

1990年に不在地主が所有する山林が売りに出されたことがきっかけとなり、カラマツ林約13haを10区画分割し、10人の女性が山林所有者となり、翌年6月に「レディース100年の森」を道内初の女性林業グループとして発足させました。

発足後、「森と人との結びつき」をテーマに、自ら枝打ちや下刈り作業を行いながら、自己研鑽と地域環境づくりのため森林林業に



アオダモの森での植樹

に関する視察研修を行うとともに、自らの森を会員や他のグループなどとの交流の場にするため、「実習林」とし、地場産カラマツを利用したログハウスを建設し、研修の場としています。

また、「森林を育て、水資源や環境を守る」をテーマに森林ボランティアグループ「緑とエコ サポーターネット」との植樹、鶴川漁協女性部との「お魚殖やす植樹運動」など他の分野との交流を行い、地域の親子や子どもたちを対象とした森林教室の開催や公共施設などへの花壇の設置など地域環境づくりの活動を積極的に行っています。

男性社会と思われがちな世界で、女性ならではの視点と感性で山と向き合い、森林の大切さ、森との共存、癒しの大切さを積極的に発信しています。

長きにわたる活動により、他の地域に新しい組織が結成されるなど広がりを見せつつあり、さらなる活躍が期待されます。



【輝く北のチャレンジ支援賞】

札幌市立藤の沢小学校保護者と教師の会

(札幌市、会長 ^{ほし たかし} 星 卓志)

札幌市では、児童会館などの整備が順次行われていますが、児童数の少ない小学校は優先順位が低く、当小学校から最も近いミニ児童会館までは、1.5km離れており、低学年の児童が通うのには困難でした。共働きの家庭では、一人で留守番をせざるを得なくなり、中には、ミニ児童会館がある小学校がいいと他の小学校に越境入学させる保護者もありました。このことに強い危機感を感じたPTAは、自らの手で児童会館と同様なものをつくろうと取り組み始め、保護者同士の意見交換会を開催、学校、札幌市等との協議を進め、小学校の空き教室を活用した放課後の子どもの居場所（小鳥の村子ども館）としてスタートしました。子どもの管理には、教員経験の豊富な管理者のほか、校区内から公募した5名の補助員が有償ボランティアとして交代で従事。事業費の大半は、管理者及び補助員への謝金であり、運営費は、札幌市からの委託料、PTA会費の値上げ分、延長利用料金で賄っています。



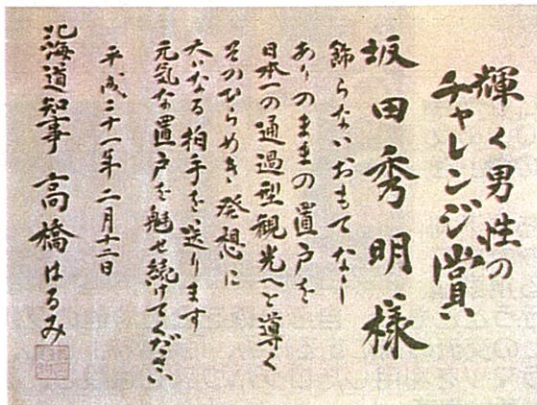
小鳥の村子ども館で人形劇

管理者等のほか、さらに地域在住の高齢者の方に参加してもらい、その方達の特技を活かしたプログラム（昔の遊び、スポーツ、読み聞かせなど）を多彩に提供しています。

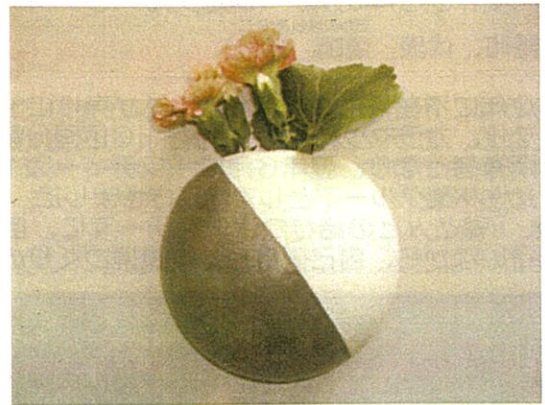
開設後、保護者へのアンケートを行った結果、「非常に良かった、どちらかといえば良かった」と回答した割合が93%に達するなど、高評価を得ています。子どもにとっても、他の学年の児童との交流や様々な体験ができ、保護者にとっては、安心して仕事に行くことができるなど、子どもを預けられる場ができたことで、仕事のほか、様々な可能性が広がるとともに、PTA活動への参加もしやすくなりました。

保護者、学校、地域住民が一体となった、子育てしやすい環境づくりは、親にとっても子どもにとっても安心する社会であり、他の地域においても取り組みが期待できるモデルであると言えます。

坂田 秀明様の賞状文と副賞

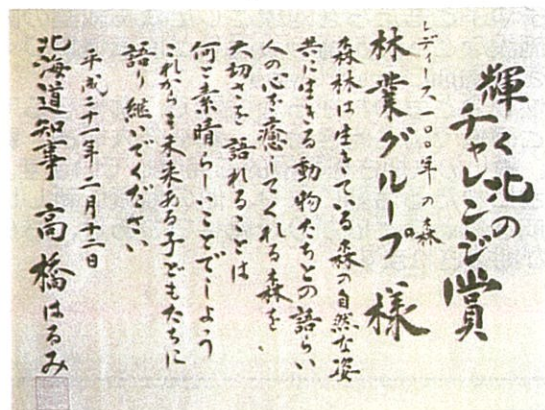


賞状文

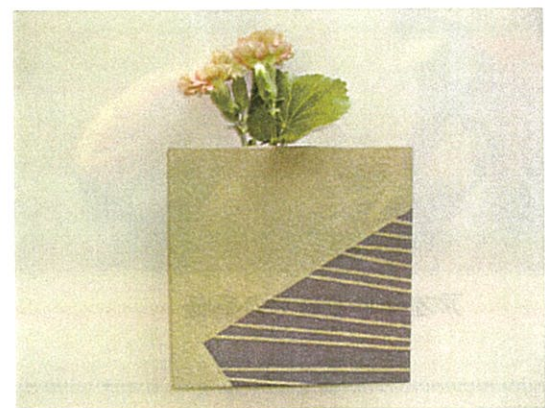


副賞

レディース100年の森 林業グループ様の賞状文と副賞

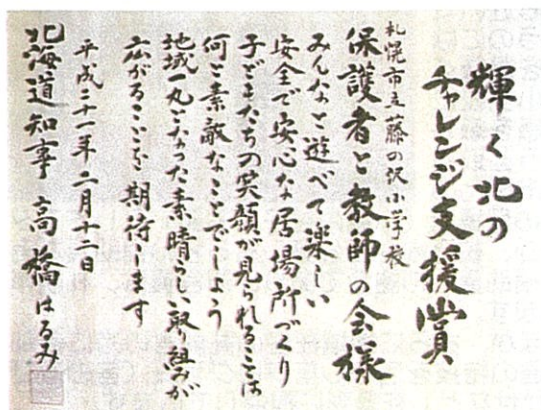


賞状文

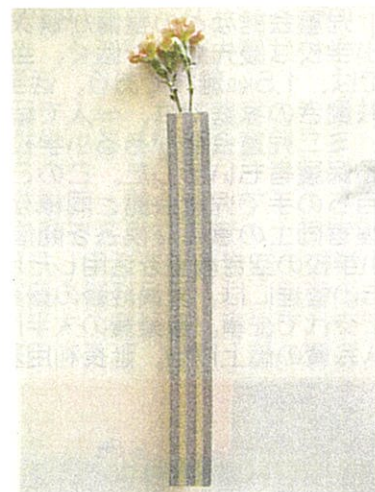


副賞

札幌市立藤の沢小学校保護者と教師の会様の賞状文と副賞



賞状文



副賞

賞状揮毫：平田 ちようかん 鳥 閑氏

副賞（壁掛け花瓶）：つたい のりこ 乃理子氏作

北海道環境生活部生活局参事男女平等参画グループ
平成21年2月
TEL:011-204-5217(直通) FAX:011-232-3640